

第215回（令和6年7月14日施行）

上級商業簿記

問題1は、勘定の役割についての理解を問う問題です。簿記の学習に当たっては、たんに計算ができればよいというわけではなく、その勘定が仕訳のなかでどのような役割を果たしているのかという点に注意を払うことによって理解がより一層進みます。問4は解答できたものの、問1から問3までは解答できなかった受験生は、本問で取り上げられているような勘定のそれぞれの役割を、ぜひ理解しておいてください。

問題2は、ソフトウェア制作費に関する簿記処理の理解を問う問題です。仕訳で用いる勘定科目は単純であるものの、金額の計算に当たって、いろいろな条件を考慮する必要があるため、落ち着いて確実に解答していくことが必要です。解答できなかった受験生は、公益財団法人全国経理教育協会編『全経簿記上級商業簿記・財務会計テキスト（第8版）』の「VI 固定資産の会計」の「3 無形固定資産とソフトウェアの会計」を復習しておいてください。

問題3は、決算整理前残高試算表をもとに決算整理を行い、損益勘定と閉鎖残高勘定を完成させる問題です。決算整理事項には、商品売買、有価証券、金銭債権、固定資産、長期借入金、社債、ストック・オプション、自己株式、法人税等といった論点が含まれています。いずれにおいても、基礎的な取引について確実に解答できるかという力が問われています。

第215回（令和6年7月14日施行）

上級財務会計

問題1は、会計諸基準に照らして出題文が正しいか否かを問う問題です。これらのうち、1. は継続性の原則に関する出題で、会計処理の原則及び手続を変更する場合には正当な理由を備えていることが必要であることを明記してください。また、7. については、わが国の会計基準では、固定資産の減価償却方法は会計方針に該当するが、変更しても遡及適用は行わないと規定されており、出題文では結論に至る理由の説明が会計基準に沿っていないことを明らかにしていただきたく思います。

問題2は、固定資産の減損に係る会計基準について、減損の認識に関する知識の正確性を問う問題です。具体的には、帳簿価額が割引前の将来キャッシュ・フローの合計額を上回っている場合に減損を認識し、そうでなければ認識しないことを、計算例で正確に表現していただくことが必要です。特に、当該固定資産に対する将来の直接間接の支出額は将来キャッシュ・フローの計算に含めるものの、利息の支払額は含めないことに気を付けてください。

問題3は、社債発行費について、原則として資産計上をしない理由を説明したうえで、繰延資産に計上できる場合の根拠を示していただく問題です。全体として資産負債アプローチに基づき説明される現代の会計基準において、費用収益アプローチで説明される部分が残されていることを理解していることが解答の鍵となります。

第215回（令和6年7月14日施行）

上級原価計算

問題1は、工程別総合原価計算をベースとして標準原価計算を実施するために必要となる理解を問う問題である。問1では、累積法の工程別原価計算を前提とした原価標準の設定について問うている。問2では、工程間の完了品の振り替えプロセスについて資料から適切に理解できることを確認する問題である。問3では各工程における仕掛品および完成品の標準原価、問4および問5では材料費および加工費に関する標準原価差異の計算に関する理解を確認している。そして、問6では、原価計算基準が定める標準原価差異の会計処理の方法に関して問うている。

問題2は、工場会計を本社会計から独立させている場合の会計処理についての理解を問うものである。問1では、本社と工場間の業務上の取引を工場側でどのように記帳するかを問うている。問2では、月次決算を実行していることを前提として、工場の理系を本社に引き継ぐための会計処理を問うている。問3では、工場における本社勘定の残高計算を問うことによって、本社と工場間の内部的な債権債務に関する会計処理についての理解を確認している。問4は、工場会計を本社会計から独立させる意義、問5では、企業内部の振り替えにおいて内部利益を含む振替価格を利用する意義を問うている。

第215回（令和6年7月14日施行）

上級管理会計

問題1は、予算・実績差異分析に関する問題である。予算は管理会計の一分野である業績管理会計の主要な論点である。そこで本問では、売上高や貢献利益に関わる予算・実績差異分析を中心に問うている。本問の構成は、計算問題（問1，問2，問3，問4，問6，問7），および、適語補充問題（問5，問8）である。なお、本問の内容は、過去の全経上級の問題で出題され、テキストでも詳述されている。

問題2は、設備投資（取替）に関する問題である。設備投資は、構造的意思決定会計の代表的な論点で、関連する基礎知識も登場する。そこで本問では、基礎知識を含めるかたちで問うている。具体的には、基礎知識に関する計算問題（問1，問2），および、意思決定に関する計算・記述問題（問3，問4，問5）である。なお、本問の内容も、過去の全経上級の問題で出題され、テキストでも詳述されている。

問題3は、マテリアルフローコスト会計に関する問題である。これは、比較的新しい管理会計の論点であり、最近注目されている論点である。そこで本問では、テキストで説明される範囲でこの論点を問うている。